

よりたご寺福廣

30号



間欄蓮華淨土堂本

「阿弥陀経」に説かれるお浄土の姿が、広福寺本堂の欄間七枚に表現されました。

真ん中の蓮の花は経文の「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」と続く、それぞれの蓮の華がそれぞれの光で個性を發揮しつつお互いを尊び照らしあうという、お浄土の平等の世界を表しています。

両側の六枚は、「阿弥陀経」に説かれる六種の鳥（白鶴・孔雀・鸕鷀・舍利・迦陵頻伽・共命之鳥）の姿です。この鳥は阿弥陀仏が鳥に姿を変えて仏法を説いて下さっているのです。それぞれの鳥に、説法の意味を感じ取ることができます。

細かな彫刻の後、黒い漆塗り作業。その上に金箔、さらに淡彩色が施され、美しい見事な欄間になっています。間近で見ると、その丁寧な彩色がよくわかります。ぜひお参りの際にご覧下さい。

責任役員の大谷統司様、大谷笑子様御夫妻から御寄進を頂きました。

製作は福井県の林大佛堂で昨年から取り組み、今年の春のお彼岸の前日に搬入頂きました。

お参りにおいてのときなどにゆっくりとご覧下さい。

お浄土の姿が欄間に

藤田先生 略歴
藤田徹文先生は、本願寺派基幹運動本部長、伝道院部長などを歴任され現在は広島県光徳寺様ご住職として、全国を布教活動で巡っております。『人となれ仏となれ』『正信偈の学び方』『わたしの浄土真宗』他、著書多数。

大阪府出身。龍谷大学大学院修了。

本願寺派基幹運動本部長、伝道院部長などを歴任され現在は広島県光徳寺様ご住職として、全国を布教活動で巡っております。『人となれ仏となれ』『正信偈の学び方』『わたしの浄土真宗』他、著書多数。



見敬会ご法話
藤田徹文先生

「お念佛の中の生活」

迷いの家

「迷いの家に還らんは疑う罪のあればなる、覚りの国に生まるるはただ信心に極まれり」

皆さんこんにちは。今頂きましたのは、

お正信偈の終わりの

還来生死輪転家 決以疑情為所止

速入寂靜無為樂 必以信心為能入

のところを訳した言葉です。

私たちがこの体を頂いたということにどういう意味があるのかとは、あまり普段考

えられないかと思いますが、考えぬままに

多くの人は人生が終わってしまうんです。

やはりこの体を頂いたということには、大

事な大事な意味があるんですね。私たちが

この身を頂いたということは、どういうこ

とが言いますと、私たちの命というものは

この身を頂いてから始まつたんじゃない

んですね。この身を頂く前から、私がどこ

ないけれど、連綿とわが命は続いている。

「曠劫よりこのかた、常に没し、常に流转して」というお言葉が、善導大師という方のお言葉にあります。昔の昔、到底わから

ないくらいの昔から、私たちの命は迷いに迷つてきた。そしてこの体を頂いても、迷いの

家に還っている。このまま命終わつてしまつ

「見敬会」開催



藤田徹文先生と聞法推進員

藤田徹文先生に本山佛光寺で五年間にわたり教えをいたいた新進僧侶グループの布教會（見敬会）を広福寺で開催しました。広福寺住職も、二〇代の若手の中で一人だけ三〇代（後半）での参加でしたが、春と夏の一週間の研修を五年間、同じ釜の飯を食いながら先生の教えを受ける機会に恵まれ、親鸞聖人の教えをいたたくことができました。先代住職が元気な頃でした。一期一会の思いを深く感じています。

当日は大勢のご門徒の皆様にお参り頂き、大変ご好評を賜りました。

広福寺負担金 五百四十八万五千五百五十円
心光寺負担金 百五十六万二千五百五十円
両寺総計 七百四万四千円です。
一戸あたり総額三万円

をお願いさせて頂くことになりました。
本年から十九年までに一括または分納のご希望に応じて、世話方さんまたは寺に納入頂ければ幸いです。

◎「瓦懇志」のお願い◎

本山負担金（一戸あたり三万円）とは別に、親鸞聖人座像を安置する大師堂大屋根

◎一万円の広福寺墓地勧金

一戸あたり一万円の勧金とさせて頂いております。寺の教学、寺務、管理、營繕費等になります。おそれりますが世話方さん名前か法名が入ります。一口五千円で、何口でもお申しあげます。

ただし、瓦を屋根に上げるため工事日程の都合上、今年度中にお申し込み頂ければ幸いです。別紙の本山からの「瓦懇志のお願い」をご参照頂き、瓦懇志の袋にご記入の上、世話方さんか、広福寺に納入して下さい。

◎二千円の広福寺墓地管理費

一戸あたり一千円の勧金と同時に納入いただける方はよろしくお願いいたします。世話方さんのおられない地域の方は寺においての折などにお願いします。

たらどうなるのか。その迷いから出る、離れる、それを「出離」というんですね。離れる手がかりを永遠に無くしてしまうといふのは困る。出離の縁ということです。

私たちがこの体を頂いたということは、この迷いの人生から覚りの人生に転ずるチャンスをもらって来たんだということです。悪い命の流れを断ち切つて、本当の命の歩みをさせてもらう、そういうチャンスをもらつて来たんだということです。

生まれた、ということは死にますからね、どうぞ死ぬまでに、この身のある間に、この迷いの命の流れを断ち切つて、覚りの命に変えないといかん。そういうチャンスをもらつて生まれて来たのがこの身ですよ、と仏教は教えて下さるんです。だから人間がこの身を頂いた意味は何かといふと、このたび迷いを転じて覚りの世界に向かう、そういうチャンスを頂いている、そのチャンスを生かさなかつたら、この身を頂いたという意味がないということです。

どんなにこの世で出世したといつても、迷いを転じて覚りに生かす人生に転ずるこれがなかつたら、その人生は空っぽの人生、空しい人生だということです。だからせつかく命を頂いた意味がないということ

光炎王仏^{こうえんのうぶつ}というものは阿弥陀様です。阿弥陀様は光と炎の王様みたいな仏様だと書いてあるんです。なんで王様みたいかといふと、三塗の黒闇を開いて下さるからだと。だから「仮光」が光、「照曜」が炎、「最第一」が王に当たるわけです。

阿弥陀様はどういう方かといふと、こ^{こうえんのうぶつ}ういう三塗の黒闇つていう暗闇の世界を開



往生といふこと

いて下さるんですよ。私達は今、ここにおる。今だけではなく昔から、この世に生まれてくる前も、この三塗の暗闇におつたといふ。だから迷いの家の一階部分が三塗の黒闇です。さて二階の部屋は、こつちが人間の間でね、こつちが天人の間なんですよ。だからちょっといいみたいですが、どつちにしろ陽が射さない、同じ屋根の下ですからね。迷い、それを「生死輪転家」迷いの家、お正信偈では「還來生死輪転家」って書いてある。そういう話じゃないんですね。「生死輪転家」この五つの部屋を「五悪趣」^{ごあくしゆ}、「即横超截五悪趣」^{そくおうちょうぜつごあくしゆ}とお正信偈に書いてあるでしょう。お正信偈をみなさんしょつちゅう聞いておられるんですがね、あまり自分と関係ないと思つて聞いているんですね。私たちはこういう部屋の中を行つたり来たりしている、このまま命終わつたら、永遠にこんな家から出られない。

私たちには何かあつたら「わしがこう言つたのに、若いもんが聞いてくれん」、「わしがこう思つてゐるのにお父さんが反対する」、「何かあつたら「わしが」という思いが、皆さんも出てくるようになつたでしよう。いつの頃からか、何かあつたら「わしがこうする」、口では言わないけどね「わしがこうしようと思つてゐるのにあれが反対する」、

自分は迷つてゐるか

ところが、みんな自分が迷つてゐるとは思つていません。私はまともだと思つてゐる。まともどころか、私は人よりも上くらいだと思つてゐる。大体人間といふのはよく似た者の間におると、自分が見えないんです。自分が見えないどころか、だんだん自惚れで行きます。第三者から見たら同じようなもので、お互いがどう思つてゐるかといふと、自分がちょっと上だと思つてゐるんです。

どうしてかといふと、人間といふのは自分に点が甘くて他人に点が辛いでしよう。同じ失敗をしても、他人がやつたらボロカスに言うけれど、自分が失敗した場合は止むを得なかつた、あれで私はよくやつた方だと自分を慰めますからね。だから他人から見たら大体チヨボチヨボでもね、自分でどう思つてゐるかといふと、あれよりはわしはましだと思つてゐる。こつちの人はこつちで、あれよりはわしの方が上だと思つてゐる。

人間といふのは同じ人間の中におると、自惚れることがあるんですね。もちろん口では

です。そしていつ何時死が訪れるかわからないから、一刻も早くそのことを実現しておかなかつたら、この世に生まれたチャンスの意味がない。

「わしはつまらん人間だ」と言いますよ。でも「あれよりはましだ」と思つてゐる。「わしはお粗末なもんだ」と口では言うけどね、「お粗末だけど、あんなもんに比べられたらたまらん」と言うでしよう。「そうわしも立派なことは言えないけど、あれ程はひどくな

い」そして、いつの間にか一番上に行つてね、

何があると人を下に見て「あれも年だけ取つてるけど、出来ておらんなあ」「あれも立派なこと言つまだ」と、みんな下に見る。こんな風になつてしまふでしよう。人間といふのは上に行つ

てしまふんです。

だから、仏様の教えを聞かない限り、なかなか自分の本当の姿は見えない。他人を眺めているだけなら、どうしても自惚れてしまふ。じやあ私たちはどうなつてゐるのか。仏様は、迷いの家に還つて……、とおつしやつた。親鸞聖人もそれを頂いて「還來生死輪転家」迷いの家に還つて……、とおつしやつた。

迷いの家の見取り図

「迷いの家」というのはどんな家か。今から見取図を書きましょうか。話より絵に描いたほうがわかりやすいでしよう。今から迷いの家を書きますよ。皆さんも体がどこにあると、命はそこに住んでるんですよ。

この体を頂いたということは、こういう家から出て離れて行くチャンスをもらつたんだということ。それがこの身を頂いたということの意味だということです。

さて、家を出てどこへ行くんですか。家を出て、広い広い、それこそ光り輝く世界に往くんだということ。広い光の射す世界に、生まれて往くんだということ。それを「往生」といふんです。迷いを出るということですね。ところが私達は、自分が今この一階にいるつていうことがなかなかわからないんですね。それで、今からこの部屋の中に、どういう人がいるのか、説明しますからね。「あら、言われてみたらわしもこの辺に座つてるとわかりますよ。知らない間にそこへ行つてしまつてゐる。

私たちには何かあつたら「わしがこう言つたのに、若いもんが聞いてくれん」、「わしがこう思つてゐるのにお父さんが反対する」、「何かあつたら「わしが」という思いが、皆さんも出てくるようになつたでしよう。いつの頃からか、何かあつたら「わしがこうする」、口では言わないけどね「わしがこうしようと思つてゐるのにあれが反対する」、

迷いの家は二階建てなんです。これが、高い高い壙で囲まれてゐるんです。刑務所の壙より高いですよ。全く外が見えない。外から壁、「我」の壙で囲まれてるんです。「我」の壙に囲まれて外からは陽がまともに射さないくらいの高い壙です。

それで、部屋が五つあるんです。下に三部屋で、二階に二部屋あるんです。みなさんのお家はどうですか。そしてそれぞれの部屋に名前がついてるんです。旅館でもついてる

でしょう。桜の間とか、菊の間とか。一階の一番真ん中の部屋、いい部屋だと思いますけ

どね、この部屋を「地獄の間」というんです。この隣が「餓鬼の間」といつてね、こつちの

方は「畜生の間」。

だいたい私たちはこの一階の部分で行つたり来たり、行つたり来たり、それを迷いと迷いの家に還つて……、とおつしやつた。うんですね。この三つの世界を三塗の黒闇といふんですよ。お正信偈の後の六首引の最後のご和讃^{ごわさん}、「仏光照曜最第一」^{ぼうこうしようよさいだいち}、光炎王仏^{こうえんのうぶつ}となづけたり、「三塗の黒闇開くなり」^{さんずのくろあんかいなり}と書いてあるでしよう。「大應供を帰命せよ」^{だいおうくぎめいせよ}と。あれの意味がわからぬで「仏光照曜最第一」^{ぼうこうしようよさいだいち}と言ふといよいよ正信偈も終わるなあ、と思う。終わりますよ、という予告の歌じやないんです。大事なことが書いてあるんです。

「わしがこう言つたらあれがどういう、わしがわしが……」

我執

「わしが」というのを仏教では我執と言います。自我に執着するということ。自我とはどういうことかというと、人間は執着して、執着したものに、逆にとつつかまるんです。束縛される。これが人のあり方ですね。なんでもそうですよ。皆さんどうですかね。私もこの頃言わなくなりましたがね。若いころは、ご法座に行く所行く所でよく言つたんです。「皆さんの中でお金の嫌いな人おりませんか」と聞いたんです。なんば聞いても「嫌いや」という人はおりませんから、このごろ聞くのがばからしくなって聞かないんですね。誰か一人くらい「お金いらん」という人がおつたらね、「この度は大きめのカバンを持っておりますから」と言おうと思つて待つてるんだけど、誰も「いらん」という人いませんわねえ、お金は大事ですからなあ。けれどもあんまりお金にこだわると、お金を使うんじゃなしに、金に使われて人生終わります。握つたはずのお金に振り回されて、人生が終わってしまう。人間は握つたものに、逆にとつかまるんです。また、地位もそうですよ。握つて離さない人がおりますなあ。最後は石

きずられている命のあり方を「五悪趣」といふんです。もうちょっと順番に詳しく言つて行きましょ。煩惱はどういう形で起つてくるかと云ふと、だいたい決まつてるんです。人生が調子良く行つたら、「貪り」という煩惱が起つてくるそうです。もつともつともつと……と、これでいいとは言わない。もつともつともつと……ですね。

欲が悪いとは言いませんよ。人間はね、欲がないと元気が出んのですね。なんか賞品があると元気出ますなあ。賞品なしでジャンケンボンなんてあほらしくて誰がするかってもんでしょう。ちょっとのものでも、あれもらえるのかと思つたら元気出るものね。人間でそういうもんなんです。何もなしで「はい、やりましよう、ジャンケン」あほなことでね、知らんわいて皆よそを向いてしまふ。やつぱり欲があるからね、元気も出て張り切るんですよ。欲もなかつたら元気出ませんからな。欲も大事なんです。

だいたい私の村でもね、足が痛い腰が痛い言つてるばあちゃんでもね、旅行をすると言つたら、急に元気になつたりするのありますからな。ねえ、あれもひとつ欲。皆さんも何十歳になつてもね「ものが分かつ

持て追われるようになるでしょう。だいたい人間というのは、つかまえたと思つてのものに、逆につかまるんです。

このたびの皆さんへの「見

敬会のご案内」に、私の家の写真まで載せてもらつているんですがね、私も三十年前は、いいのつかまえたなあと喜んでたけどね、最近はとつつかまつて難儀をしとる。人間つてそんなもんですよ。つかまえたはずのものに、つかまつてしまふ。わし「が」つかまえて、「が(我)」に逆にとつつかまつてふりまわされてしまう。

「我」の中身は

この「我」の中身は何かといつたら、煩惱ですね。煩惱の煩といふのは、身を煩わす。煩わしいという字です。だから親鸞聖人はね、煩といふは身を煩わし、悩は心を悩ますとおつしゃつた。わが身を煩わし、わが心を悩ますような心の動き、それが煩惱ですね。私の中には、だいたい自分で自分を苦しめるようなものはばっかりがありますね。それが煩惱。

この「我」の中身は何かといつたら、煩惱ですね。煩惱の煩といふのは、身を煩わす。蓮華のような、お念佛を喜ぶ人を妙好人といふんですね。白蓮華のような人です。昭和の初めまでおられたそうですが、その中にこういふ言葉がありますね。

「煩惱に目鼻つけたがわが姿」私はいつたい何かといつたら、煩惱に目鼻つけたら私になる。ということは私の中身は煩惱。そんな煩惱に執着して、そして煩惱に縛られて、気づいてみたら煩惱の命するままに、この体は右往左往している。わが身を動かす司令官は誰かといつたら、煩惱です。煩惱を主にしてながら、煩惱に引きずられている。煩惱にひ



前回の見敬会で、奥様と

少欲知足

この欲と貪りの境界線を、仏教では「少欲知足」というんです。欲をちょっと少なめにするんです。昔の人は腹八分目と言つたでしょ。腹八分目にしていたら健康な

ことですよ。それを十二分に食べて、まだご馳走ないかと言うから病気になるんですよ。昔は栄養失調になつたけど、今は栄養過多といいますね。せいたくし過ぎてるね。だから八分目にしとけばいいのに、欲を膨らませ過ぎたら病気になるでしょ。欲を抑え目にして欲を抑え目にして、足る事を知り、足る事を知りなさいということ。考えたら、まあこの辺で喜ばしてもらわんといかんよ、これ以上贅沢を言つたらいかん、この辺にしとかないといかんと、つまりは足ることを知ること。足ることを忘れたらね、だいたい貪りです。

今の日本人はほとんど足ることを忘れてたぶん過ぎてるだろうと思いますわ。もうほとんど自分で気付かんうちにね、欲で終過ぎたことになるんでしょうね。今から境界線を言つときますからね。皆さんも境界線を過ぎてるかどうか、確かめて下さい。

ほんと自分で気付かんうちにね、欲で終過ぎたことになるんでしょうね。今から欲と貪りの境界線。どこまで行つたら度が過ぎたことになるんでしょうね。皆さんも境界線を過ぎたことになるんですけどね。これ以上贅沢を言つたらいかん、この辺にしとかないといかんと、つまりは足ることを知ること。足ることを忘れたらね、だいたい貪りです。

日本人はほとんど足ることを忘れてるんじやありませんか。もういいとは言わないでしょ。持つても持つても、あれが欲しいこれが欲しい。戦争が終わつた頃から考えてみたら、今は持ち過ぎるほど持つぱい物が置いてあつてね、住むところより物を置いている場所が多いつていう家があります。物の間に寝てるようなもんです。だから食べるものにしてもね、もつとうまいもんないかないか、……それで病気になつ



腹を立てる。人を責める。

また、反対に人生が思うように行かない、腹を立てるんです。これを「瞋」(いかり)といふんですね。人生が自分の思うようにならないと言つて腹を立てる。人間はいいことがあつたら、みんな我が手柄ですね。思うように行かなかつたら人のせいにしますよ。だからひどい場合は、夫婦の間にできた子でも、いいところはわしに似たんだ、悪いのはあんたに似てつまらん。お互い悪いところを押し付け合つてゐる。子供が零点を取つて帰つてきたら「誰の子や」と言つて怒る。百点取つてきたら「さすがわしの子や」とほめる。人間はえらく勝手なもんですな。そういうところがあるでしよう。

そして、腹を立てたらどうするか。腹を立てたら決まつてゐるんです。人を責めるんです。「あいつがつまらんことしたからこうなつた。あれがつまらんこと言つたからこうなつた」と、顔色を変えて人を責める。その、人を責めている命のあり方を、鬼と言つてゐるんです。

仏教では鬼というのは、よその方にいるつていう話じゃないんです。仏教は、今ここにいる私がどうなつてゐるか、という話を聞いてるんですよ。生活は生活でそこへ置いてお寺の話はお寺の話でこつちへ置い

いといて、という話じゃないんです。
今私はどんな日暮らしをして、どうなつてゐるか、といったらね、何かあつてうまく行かないと、誰がつまらん、これがつまらんと責め合つてゐるでしよう。顔色変えて責めるんです。腹を立てたら顔色は何色になりますか。だいたい「色だと思ひますな。赤くなる人と、青くなる人と。真つ赤な顔をして人責めるでしょ、真つ赤な顔をして人を責めてるのを赤鬼という。そして、青筋立てて人を責めてるのを青鬼という。鬼はね、赤と青しかいない。黄色い鬼って聞いたことはないでしょ。ねえ、皆さんも顔色が黄色になつたら黄疸症状が出るから、病院へ行つた方がいいんですよ。

ところで、私たちは、人が顔色を変えて怒つての顔は知つてますわ。だからすぐ「あの人は鬼だ」みたいに言う。ところが、自分が顔色変わつての顔は見たことがない。だからいつも人の話になつてますね。でも、なんか私らも知らん間に顔色を変えてるでしよう。だつて人を責めている。これを、鬼といふんですよ。

「こ」に鬼がおりました

先程言いました浅原才市という方は、ご法座のお話を聞きながら「ああ、そう言つ



30号

廣福寺だより

平成16年6月 (8)

着るものでもどうでしようね。私など子供の時によそへ行く時にね、どの服着て行こうか迷つたことがない。何でかといつたらね、よそ行きは一つしかないんですよ。一つあればいい方でしよう。だからよそへ行く時は、いつもおんなじ。この頃みんなたくさん持つてゐるから、出掛けるときには悩むでしよう。特に女の人なんか旅行に行くといつたら、十日も一週間も前から、どれ着ようかあれ着ようか、鏡の前行つてみたりね、洋服ダンスひとり返したりして悩む。どれ着てもおんなじでしまう。



顔してんのにね、どれ着ようかあれ着ようか。そして悩むほど持つてゐるのにね、結局また新しく買うんです。そして新しいの買って喜ぶかといつたらね「気に入るのがなかつたから、これで辛抱した」と言うんです。辛抱するなら買わなきゃいいのにね。持つても持つても、また何かあつたら買いますね。だから、しまには自分の持つてるものもわからんくらいには持つてゐる。

私の家内も先だつて旅行する時「お父さんこんな服が出てきた」と言う。「こんな服が出てきたって、おまえが買うたんやろ」と言つた、いつ買ったのか、覚えがない。いつペん着たら片付けてるからね。それ位持つてゐるよ。そうなつてくると喜びがなくなつていている。

人間はね、おかしなもんで、持てば持つほど喜びがなくなるんです。昔は「もの喜び」でしたでしよう。一つ新しいの買って、うれしくて寝られなかつた。この頃は買った帰り道で寝てるやつがおりますからな。昔はうれしくてうれしくてね、一晩寝られんくらいうれしかつた。隣近所まで見てもらひに歩いとつたくらいですね。この頃そんなことないですよ。だから持つたら持つほど、喜びがない。

喜びがなくなる

人間はね、おかしなもんで、持てば持つほど喜びがなくなるんです。昔は「もの喜び」でしたでしよう。一つ新しいの買って、うれしくて寝られなかつた。この頃は買った帰り道で寝てるやつがおりますからな。昔はうれしくてうれしくてね、一晩寝られんくらいうれしかつた。隣近所まで見てもらひに歩いとつたくらいですね。この頃そんなことないですよ。だから持つたら持つほど、喜びがない。

喜びを失つた命を、仏様の目から見たらどう見えるか。どれほど体格が立派であろう、大きな体をしていても、喜びのない命は骨皮筋衛門なんです。女のひとなら骨皮筋子と言つた方がいいですか。そして下腹だけ膨らんでる。この下腹に溜まつとるのは何か。この下腹に溜まつとるのは「不足」だけ。「不足」だけ腹一杯溜めてね、何を持つても喜ばないいませんか。不足ばかり言つて、喜ばないでしよう。この姿を「餓鬼」という。死んでからも餓鬼というかもしれないけれど、今すでに私は、貪りの煩惱に引かれて餓鬼道におる。この身を頂いた時に、そんな人生にさよならして新しい人生を求めなかつたら永遠にこんなことで終わりますよ、というわけですよ。その餓鬼のことを「刀塗」といふんですよ。三塗から刀塗になる。刀塗ていうのはね、刀で塗りこめられた世界。刀とは何か、欲望です。この貪りの刀でわが身を傷つけ、人を傷つけているようなり方、そういう命のあり方がこの「餓鬼」なんですね。私たちも知らない間にそういうことになつてゐるでしよう。

う見えますわ。だからすぐ「あの人は鬼だ」みたいに言う。ところが、自分が顔色変わつての顔は見たことがない。だからいつも人の話になつてますね。でも、なんか私らも知らん間に顔色を変えてるでしよう。だつて人を責めている。これを、鬼といふんですよ。

たら、うちの隣の人が鬼や、よその人が鬼や」と言わずに「お話を聞いてみたら、ここにまさしく鬼がおりました」と頂いた。だから浅原さんは自分の姿を描いてもらつた時、角を描いてもらつてます。

だけど私たちはそれを、悪い人のことはどうちのばあちゃんの話だな、うちの嫁のような話だな、とよそへ振り分ける。嫌なことはみんな振つて、いい話は私のことだな、と受け取る。だから耳に気持ちのいい話をすると、みんな喜んでほんとほんとと言う。嫌な話をすると、誰の話だろうと、よそを向いてますね。ほんまいうとだれが鬼かと言つたらね、よそに鬼がいるんじゃない。己の思うようにならないと顔色変えて人を責めてる私、それがそのまま鬼や、といふこと。



平成15年度寺勧金決算書

科 目	予 算 額	決 算 額
勧 金	2,600,000	2,622,000
雑 収 入	5,000	3,111
繰 越 金	6,228	6,228
計	2,611,228	2,631,339

<支出の部>

科 目	予 算 額	内 訳
1. 寺務経常費	2,581,049	
(1)負担金	811,160	本山護持金(広福寺・心光寺) 教区費(広福寺・心光寺) ともしひ代 光寿堂維持管理費 本山御供米料
(2)事務通信費	287,492	複写機リース代 複写機部品 用紙代 切手葉書
(3)会議費	112,693	世話方會議 総代会議
(4)教化費	407,911	見敬会大会 本山御使僧様法礼 聞法会 広大会 経本 カレンダー代
(5)営繕管理費	865,793	火災共済(広福寺・心光寺) 灯油 剪定・冬廻い・枝処理 電気代 整理棚 建具修理 香 水桶
(6)門徒交際費	96,000	御本尊下付(3軒)
2. 積立金	50,000	
計	2,631,049	

総収入 2,631,339 - 総支出 2,631,049 = 290(次年度へ繰り越し)

平成16年度寺勧金予算書

<収入の部>

科 目	予 算 額
勧 金	2,600,000
雑 収 入	5,000
繰 越 金	290
計	2,605,290

<支出の部>

科 目	予 算 額
寺務経常費	2,600,000
事業費	0
予備費	5,290
計	2,605,290

本堂庫裏再建工事会計報告

(平成16年1月現在)

御懇志納入予定総額
253,004,000御懇志納入済金額
230,919,000(91%)御懇志未納入金額
22,085,000(9%)※ 現在も分納の方の御納入を頂いて
おります。御懇念の程、誠に有り
難うございます。年忌法要を通し、仏法のご縁に出遇いま
いのちのご縁に出遇いましょう

平成16年 年忌表

1周忌	平成15年	33回忌 昭和47年
3回忌	平成14年	37回忌 昭和43年
7回忌	平成10年	50回忌 昭和30年
13回忌	平成 4年	100回忌 明治38年
17回忌	昭和63年	150回忌 安政 2年
23回忌	昭和57年	200回忌 文化 2年
27回忌	昭和53年	250回忌 宝暦 5年

てもよかつた人なんです。後小松天皇のご落胤でしたが、後小松天皇の跡継ぎはおりませんで、全然違う甥が天皇になりましたからね。ほんまなら「休さんがなつてもいいぐらいいですが、若いときからお坊さんになりますよ、いつたんお坊さんなつた人が天皇に戻つたことはないそうです。いつたんお坊さんになつた人で、将軍になつた人はいるんですよ、足利家でね。

それで、「休さんですが「鬼という恐ろしき奴どこにある」という歌を作つてゐるんです。
「鬼といふ恐ろしき奴どこにある邪見騎慢惡衆生」(『正信偈』)というでしよう。
人の胸に住むなり」という歌です。「邪見」とはいつでも自分が正しいと思つていて、何があつたらピュード飛び出してくる訳でしよう。顔へ飛び出しますね。この身に飛び出して来るわけですね。

人間で悲しいもんですね。「自分が鬼だった」と言いながら、ついつい人が鬼に見えてしまふんですね。これが人間の悲しさです。聞いても聞いても、聞いてる時は「そうやなあ、わしも恐ろしいもんを持つとなるなあ」と聞いてるけど、何かあつたらね、あいつ鬼みたいなやつだ、とよそへ行つてしまふ。浅原才市、あんなにお念仏を喜んだ人でも「私は鬼です」と、わざわざ自分の絵に角まで描

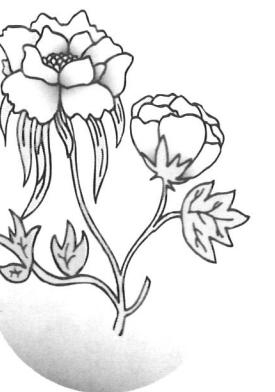
いてもらつております。うちのかかあの寝顔を見れば地獄の鬼のぞき奴と言つてます。こういう歌があるんですね。「うちのかかあの寝顔を見れば地獄の鬼のぞのまま」わたしもこの歌を知つてからは、家の寝顔を見ないようにしてます。ふと見て、横に鬼が寝ていたら怖いからね。

「うちのかかあの寝顔を見れば地獄の鬼のぞのまま。うちの家には鬼が二匹おる。男の女鬼。恥ずかし恥ずかし……」さすが念佛者ですな。あれは鬼や、と言つても、ふつう自分は恥ずかしいとは思はんでしよう。「鬼やから鬼と言つたんや。わしは間違えておらん」と言つて頑張りますからな。才市さんは奥さんを鬼やと言つた後で、恥ずかし恥ずかし恥ずかし……。「私が鬼や」と言つてあとから隣の人を鬼やという、人間といふのはどこまでいつても救われようがない、そういうことを歌つております。

では反対に、腹は立つけどね、責める力がない、人を責められん時はどうするかといふと、言い訳をするんです。去年政治家がだいぶ辞めましたね。秘書の金を使つたとか使わんとか言つてね。元気のよかつた辻元さんという女性も辞めましたな。責めてる時は迫力

こういうふうに言い訳をしてるのを、「亡者」と言つてます。これはね、足が地に着いてない。そして、この鬼と亡者がペアで住んでいる所を「地獄」と言つています。

(次回に続く)





木村俊尚師
廣福寺落慶法要にも
御参加頂きました

三月から九月までは八時半～九時半
十月から一月までは七時半～九時半
一月と八月はお休みです。

潟村梵行寺木村俊尚師にお願いしています。
気さくな人柄で、身近なお話や時事問題
を例えにして頂き、初めての方でもわかり
やすく聴聞することができます。いつから
でも、ぜひご参加下さい。現在二十人あま
りの方にご参加を頂いています。

月末の水曜日が基本ですが、都合で日時
を変更させて頂くこともあります。

お経練習は心光寺住職、聞法会講師は月
潟村梵行寺木村俊尚師にお願いしています。

最初の三十分をお経の練習、その後の一時
間を聞法会としています。

定寺院の聞法会として指定を頂き、補助
を頂いています。以前はお経会と聞法会を一ヶ
月おきにしていましたが、毎月聞法会を開き、

聞法会の現在 ぜひ御参加下さい!

「佛光寺派は、お西？お東？」

◆◆御寄進を頂きました◆◆

法事の席などでよくお尋ねになる方がいらっしゃいます。さて正解を御存じですか。

「どちらでもありません」が正解です。

浄土真宗には「真宗教団連合」があり、
十教団(派)が属しています。通常「真宗十派」
と呼ばれ、交流や研修を行っています。

教団(派)の歴史的な成り立ちは違いますが、
すべてが阿弥陀如来を御本尊とし、親鸞聖
人を浄土真宗の宗祖として仰ぐ浄土真宗の
教団(派)です。佛光寺もお西(西本願寺)もお
東(東本願寺)も、この真宗十派のうちの一つ
です。

ですから私たち広福寺門徒の「宗派」とい
うとき、「宗」は真宗、「派」は佛光寺派、
続けて言いますと「真宗佛光寺派」です。

好評です。

お参りで一番大切なことは仏法、お念仏
の教えを頂くことです。お気軽に椅子をご
利用下さい。

表紙で写真と共に紹介致しました欄間です。
○本堂用椅子 世話方 蘆 山岸哲也様
○本堂欄間七枚 世話方 燕 大谷統司様
○本堂欄間七枚 世話方 燕 大谷統司様
○本堂欄間七枚 世話方 燕 大谷統司様

次のような御寄進を頂きました。御懇念
のほど誠に有難く、心より御礼申し上げます。



・ 真宗佛光寺派	佛光寺	京都市
・ 浄土真宗本願寺派	西本願寺(お西)	京都市
・ 真宗大谷派	東本願寺(お東)	京都市
・ 真宗興正派	興正寺	京都市
・ 真宗高田派	専修寺	三重県津市
・ 真宗木辺派	錦織寺	滋賀県野洲郡
・ 真宗出雲路派	毫摶寺	滋賀県武生市
・ 真宗誠照寺派	誠照寺	福井県鯖江市
・ 真宗三門徒派	専照寺	福井県福井市
・ 真宗山元派	證誠寺	福井県鯖江市